

## 平成 29 年度訪問看護管理者養成研修会（第 1 回） 報告

研修目的：今後の在宅医療の充実を図るためには、訪問看護ステーション管理者の看護実践能力および組織管理意識が重要であり、訪問看護管理者養成研修を実施する。管理者として効果的な組織運営ができ、地域に役割を果たせる能力を習得することを目的とする。

日 時：平成 29 年 7 月 22 日（土）9 時 30 分～16 時 30 分

場 所：徳島県看護会館

講 師：1. 訪問看護における人材確保（9：30～12：30）

徳島健康生活協同組合看護部長 認定看護管理者 松浦 智恵美氏

2. 訪問看護ステーションにおける目標管理とリスクマネジメント（13：30～16：30）

公益社団法人山梨県看護協会ゆうき訪問看護ステーション 管理者

在宅看護専門看護師 並木 奈緒美氏

参加者：16 名 事務局 5 名



### <開講式>

徳島県訪問看護支援センターセンター長より挨拶  
オリエンテーション

### <講演概要>

#### 1. 訪問看護における人材確保

訪問看護ステーションの管理者は組織構築者である。烏合の衆にするか、目的を持った組織にするかは管理者にかかっているため、まず“組織論”を学んでほしい。人材（財）確保と育成はひとつのカテゴリーとして考える。「仕組みづくり」で期待と使命を考え、「仕掛けづくり」で構造と戦略、教育体制を考え、「気持ちづくり」でモチベーションを上げていくことが重要である。また、地域包括ケアの時代に向けてフレイルの考え方や ACP、連携、地域貢献等のポイントについて説明された。さらに状況対応リーダーシップとして 4 つのスタイル（教示的スタイル、説得的スタイル、参加型スタイル、委任型スタイル）を状況に合わせて効果的に使っていく。

最後に、訪問看護にかかる期待をどのように分析するのか、そこに働く看護師がやりがい

をもって働くことで何が起り、どう展開するのか、所長の展望は？あなたの philosophy は？と問いかけがありました。在宅看護は「生き抜くことを支援する」こと、訪問看護師は生活の中の医療をマネジメントすることのできる専門職としての役割を發揮してほしいと締めくくられました。

## 2. 訪問看護ステーションにおける目標管理とリスクマネジメント

目標管理とは、「目標を立て、戦略的に自分の意思で達成していくこと」、「管理」ではなく「経営」で、主役は自分であり自分で目標に向かいマネジメントするという意識である。一人一人が輝く組織と、自分すべきことを考え実行できる意思あるスタッフの両面が重要である。訪問看護ステーションの目標管理は、事業理念を理解し、理念を具体化し、さらに訪問看護ステーションの目標をスタッフ皆で決め、スタッフの目標を具体的に決めていくプロセスを踏んでいく。

訪問看護におけるリスクマネジメントの目的は以下の4点である。①利用者・家族の命を守り、生活の質を向上する。②スタッフの命を守り、安心してサービスが提供できるようにする。③質の高いサービスを提供する。④信頼を築き、経営を守る。リスクマネジメントは、「リスク発生によって被る・与える損失を予防、もしくは最小限なものとする」ことで、予防策、事故対策、事後対応を行う。ヒヤリとしたことをスタッフ間で気軽に出し合っているか、管理者自身が、「今日こんなことがあった。これってヒヤリハットだよ」とスタッフに気づいてもらうような働きかけが有効である。予防策では、マニュアルの整備、ヒューマンエラー対策、教育システムの整備、手順書の整備・設置が必要。事故対策では、当事者を責めるのではなく、組織で共有し再発防止策を検討する。さらにインシデント・アクシデント・トラブルレポートの統計を取り、傾向と対策を検討する。

訪問看護は生活の場である家庭において、利用者に看護サービスを提供しており、訪問看護ならではのリスクがある。管理者はリスク管理の目的を理解し、日常の看護ケアの中で必要な対応策を実施していくことの重要性を学んだ。

### <参加者の声>

- 訪問看護管理者としての目標管理、リスクマネジメントや人材確保、管理者としての役割等いろいろな対応について話を聞くことができ、今後役立つことがあり良かったと思いました。
- 実体験と理論を結びつけて説明して頂けたので分かりやすかったです。訪問看護ステーションで勤務していませんが、看護のあり方を考えさせられました。「生き抜くことを支援する」という言葉が最も印象に残りました。医療者中心の病院より大変なことも多いと思いますが、利用者中心の在宅看護の魅力を感じました。
- 事業理念の実現のために目標管理を行うと、結果的に収入の増加やスタッフのモチベーションの維持につながっていくことを理解できました。
- ヒヤリハットを敢えて口に出すことで周りも認識できるという話が分かりやすかった。